

着物文化を伝承する家庭科の教育プログラムの開発 —中学生を対象に伝統模様を題材として—

Development of the experiential educational program in Home Economics
to hand kimono culture to the next generation

-For the junior high school students by using the traditional design as a base material-

福田幼子¹⁾, 薩本弥生²⁾

Wakako FUKUDA¹⁾, Yayoi SATSUMOTO²⁾

1:元横浜国立大学・教育学研究科, 2: 横浜国立大学・教育学部

1: Former Student of Graduate school of Yokohama National University

2: College of education, Yokohama National University

1. 背景・目的

家庭での着物文化の伝承機能が消滅していく現代において、2006年の改正教育基本法では伝統文化の伝承の重要性が規定された。2008年の学習指導要領告示では「和服の基本的な着装」の項目が掲載された。これを受けて、浴衣の着装や、着物を題材とした授業実践の研究報告が多数みられる。浴衣の着装に関する授業実践については、薩本ら(2013)¹⁾などの先行研究があり、浴衣の着装は生徒の高揚感を喚起し着物文化への興味関心を生む効果があることが示されているが、教師の技量の問題や浴衣の準備などの負担が大きいという課題も見出されている。また男女の高揚感に差がみられ男子の方が低くなっている。着装を題材とした授業では、着物に触れる経験がほとんどなかった生徒が、衣服としての着物を身体的に理解し、着物に「気づく」、「知る」といった導入としては非常に効果的な題材である。しかし、着物を着た際の拘束感に否定的な印象を抱く生徒も一定数認められ、また1回の体験学習がその後の着物文化への関心へどのようにつながるかについては未知数といえる。

その他の着物に関する授業の実践例として、高橋ら²⁾は着物が明治期に西欧のモードの衣服に影響力を持ったことに注目し“モードのジャポニズム”を題材とした授業を開発しているが、日本の工芸技術や美意識の高度さを取り扱うものであることから、やや生活から乖離している面があると考えられる。

そこで本研究では、学校教育において、生徒が「文化としての着物」の理解を深め、その奥深さや素晴らしさを感じる心を養うた

めに、実践的な教育プログラムを開発し中学生を対象に実践した。すでに本教育プログラムの教育実践内容に関しては既報で報教育プログラムの効果の検証するために授業実践前後のアンケート調査等の解析から本教育プログラムの効果を明らかにすることを目的とする。本研究は著者の修論⁴⁾の一部を元にまとめたものである。

2. 教育プログラムの開発『模様ワーク』

本研究の新規プログラムにおいて、慶事の礼装用の着物に描かれる美しい伝統模様を題材とすることにした。着物は「直線的で平面的な衣服構成」という特徴は平安時代以降、本質的には変化がなかったといわれる。日本においては衣服構成よりも布地に描かれる「図柄」によって美意識を表現することに重点がおかれてきたのである。したがって着物の模様には長い歴史を経たことによる洗練された美しさが表現されており、それは現代でも色褪せない魅力の一つとしての存在感を保ち、日本独自の美意識も表現されることから、着物文化を学習する導入として、生徒の興味関心を引き出しやすいものと考えられる。

1) 授業形態・教材

学習形態は、実物の着物を観察し描かれる模様を生徒自身が他の生徒と共同して探し、主体的に学習するワーク形式(以降これを『模様ワーク』と呼ぶ)とした。模様を探す際に、ゲーム感覚を伴い、一つ一つの模様を生徒がじっくり観察する仕組みになっている。教材として用意したのは、「模様カード」と「実物の着物・帯」である。

① 模様カード

模様カードは、名刺サイズの紙の片面に模様の図柄が、もう片面に模様の名前と意

味が書かれたものである。図1にカードの見本を示す。模様の種類は、表1に示す例のように様々なものがある。「牡丹」は今でも身近に存在し見た目も美しく分かりやすい模様である。「亀甲模様」は幾何学的な面白さがある。「宝尽くし」の一つである「巾囊」は一見何か分からないが、遠い歴史が感じられるかもしれない。このような模様を、着物に描かれる模様と対応させて用意した。カードの枚数、教材となる着物や帯に描かれる模様の種類の数によって異なるが、1つの着物/帯あたり、7~18枚である。



図1 模様カード

表1 模様の例

模様の図	名前・意味
	牡丹(ぼたん) 姿の美しさと豪華さから百花の王と呼ばれて、多くの花の中で最も存在感のある花。幸福、富貴などを意味する。
	亀甲(きっこう) 正六角形の幾何学模様。亀の甲に似ているのでこうよばれる。「亀は万年」と言われ長寿の象徴。
	霞(かすみ) 自然を表す模様として、とらえどころのない霞を昔から日本的な感覚で模様化している。
	巾囊(きんのう) 宝尽くし模様(いろいろな宝物を並べた縁起のよい吉祥模様)の一つ。経済を表し、お金の不自由しないようにという意味

② 着物/帯

現代の着物にみられる模様は、モダンな柄、縞などシンプルな柄、伝統的柄など様々である。今回、学習目的から、古典柄といわれる長い歴史の中で生まれ、日本の独自性が強い模様が沢山描かれる慶事の礼装用の着物または帯を用いた。男性用の着物に関

しては、成人用は無地や縞柄などシンプルな柄が多いが、子供用の祝い着(図2)には伝統模様が描かれる。したがって、男性用着物は子供の着物を用いることにした。

着物/帯を着用する場面として様々な場面を想定できるように、0歳児用、3歳児用、成人用を取り混ぜて次の種類を準備した。

- お宮参り用(0歳児) 男児祝い着
- お宮参り用(0歳児) 女児祝い着
- 三歳女児祝い着
- 成人女性用(成人式を想定) 振袖と袋帯

着物や帯は通常、非常に高価なものである。しかし、近年、リサイクル店が充実しており、ここでは不用になった着物やシミがあるものなどが、数千円程度で入手可能である。今回の教材もリサイクル店で安価で購入したが、これらの着物/帯は絹の素材であり、柄付けはインクジェットプリントなど大量生産によるものではなく、友禅染あるいは西陣織といった元々の品質は良いものである。そのため味わい深く、生徒がすみずみまで観察すればするほど新しい発見が可能となるものである。



図2 教材の例 (男児の祝い着)

2) 伝統模様の特徴

伝統模様の特徴について大きく3つの要素、つまり「歴史・風土」「人間の心情(幸福への祈り・自然の賛美)」「美術的表現」があると筆者は捉えた(図3)。

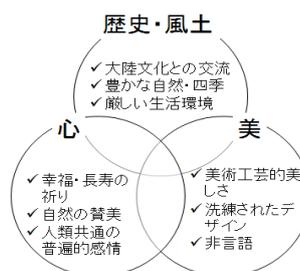


図3 伝統模様の特徴

背景には奥深い世界が広がる。例えば、現代でも身近である松竹梅模様は古代に中国文化の影響を受けた模様であり、中国など大陸文化との交流の歴史が刻まれている。四季の風景、山、海といった気候風土も豊かな感性で効果的に表現されている。

模様は非言語のものであり、長い歴史を経たことによる洗練されたデザイン性がある。さらに、慶事の礼装に描かれる模様の多くは吉祥性(おめでたい意味)を持ち、めでたいことを求め喜ぶ、あるいは幸福を祈り祝うという心情を吉祥模様として視覚的に表現するという、時代や民族を越えて共通する人間の本質的な感情も含まれる。

このように日本の独自性もあり美しい伝統模様は学習教材として効果的であると考え、取り上げることにした。

さらに授業の際は、生徒が各自の感性で模様を捉え主体的に学習できるよう工夫した。例えば、実物の着物を用意し実際に生徒が触れられるようにし、体験的な学習形態とした。

着物に描かれる模様の美しさと奥深さを感じ、さらに背景知識を得ることで先人が育み受け継がれてきた想いに共感の心が芽生え、着物に対する文化としての理解が深まることねらいとした。

また、模様は非言語であり上記のように幅広い視点で多様な捉え方が可能である。さらに男女ともに作業が可能な題材でもある。

③ ワークシート

授業の際、ワークシートを用意し(付録 4)、生徒が一通り模様を観察した後、気に入った模様の一つを選び、理由とともに記入するようにした。さらに、「授業でわかったこと・発見したこと」を記述する欄を設けた。

3) 『模様ワーク』の授業における流れ
まず、模様ワークの前に、教材となる着物や帯が着用される場面として、通過儀礼についてその由来とともに解説した。特に、着物に込められた想いを近代以前の昔の人の生活環境の中で想像できるように、「七歳までは神のうち」というフレーズを用いた。医療や科学が未発達であった時代に七歳まで成長することが難しい環境があり、その中で子供の成長を祝う七五三という儀式があり、着物に吉祥模様が描かれ、無事の成長を願

い、祝われてきたと説明した。

次に、通過儀礼で着られる着物には美しい模様が描かれ、それぞれの模様に名前、由来、意味あることを一部の模様の事例とともに紹介した。その際に、日本の古代の歴史に触れ、シルクロードという中央アジアから中国を通り日本へ渡る交易の道があり日本は「シルクロードの最終地点」として様々な大陸文化が中国経由で日本に到来し、その影響を受けた歴史が模様の中にも残っていることを説明した(図 4)。

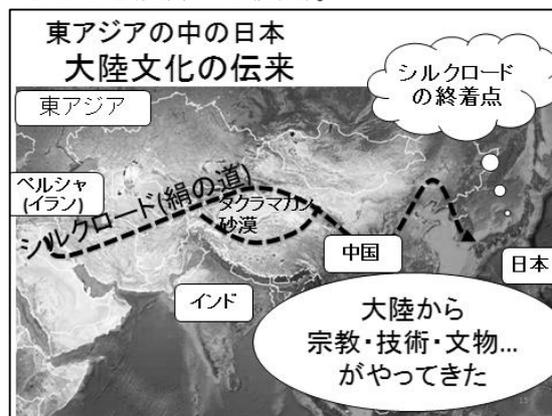


図 4 大陸文化との交流の歴史

さらにそのような歴史が刻まれている例として松竹梅模様(図 5)を取り上げ、これらが中国

文化の影響を受けた模様であり、日本が東アジア文化圏の一つの国であることを説明し、広い視野で日本文化をとらえる視座を持つことを意図して解説した。



図 5 松竹梅模様の紹介

このような教師による説明の後、生徒は 4 人~5 人の班に分かれ、各班に 1 枚の着物または帯および対応する模様のカードのセットを配布した。そして、生徒が自由に教材に触れながら模様カードに描かれる模様を

探すように指示した(図6)。その際、班の中で生徒同士、協力して模様を探すことと、発見した模様の名前と意味を班の中で互いに発表し合うように指示した。



図6 『模様ワーク』で生徒が模様を探す様子

一通り、生徒が模様を探した段階で、ワークシートに気に入った模様と理由を書くように指示した。模様の図は、時間がある場合のみ書くように指示した。その後、生徒の代表者数名に、選んだ模様と理由について全体で発表してもらった(図7)。



図7 代表生徒の全体発表

最後のまとめとして、模様から見えてくるものを、「歴史・風土」「美術的デザイン」「幸福への祈り」の3つの要素(図8)にまとめて、教師が解説した。さらに近代以前の生活環境にも触れ、厳しい自然環境の中で生きてきた先人が模様に入れた想いの強さを述べた。

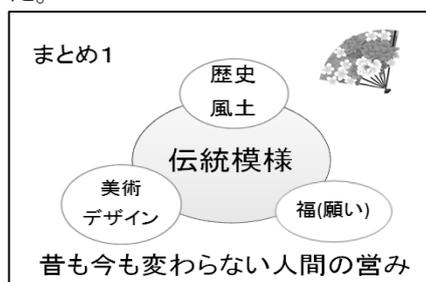


図8 授業のまとめの3要素

また、現代でも身近に模様が存在してい

る例としてキッコーマンのロゴと校章を挙げて説明した。これは、伝統模様が今日まで受け継がれ、先人が育んできた文化の積み重ねの上に現代があり、それが生活を豊かに彩るものであることに気づくことを意図したものである。

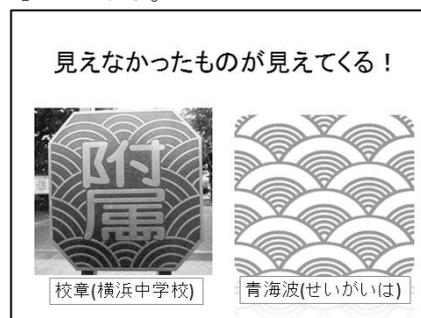


図9 身近に存在する伝統模様の例

3. 授業実践

2015年9月15日に『模様ワーク』を取り入れた着物文化を学習する授業を実施した。授業の効果を検証するため、授業前と授業後にアンケート調査を行った。昨年同様に本研究の授業実践の前に、教育実習生による浴衣着装のワークショップ型の授業が行われた。浴衣着装の授業は、教材と人員手配の関係により、生徒は1クラスにつき2つの班に分かれ、家庭科の授業(浴衣着装)と、技術科の授業に分かれ、2週に渡って交互に班を入れ替えて行う形とした。一連の着物に関する授業の流れと、アンケートの実施のタイミングを図10に示す。なお、事前アンケートは浴衣着装ワークショップ前に実施し、回収した。

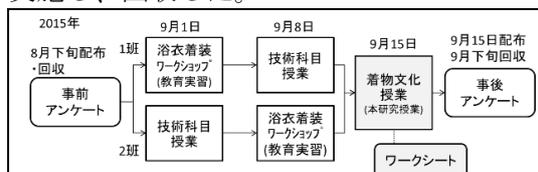


図10 一連の着物学習の授業とアンケート調査のタイミング

3.1 授業の概要

1) 日時・対象

本研究の授業は横浜国立大学附属横浜中学校の家庭科において中学1年生3クラスの生徒(A組:43名,B組:42名,C組:42名)を対象に実施した。実施日は2015年9月15日であり授業時間は50分間(1コマ)である。授業はA組,C組,B組の順で行った。

2) 教材

教材は『模様ワーク』に用いる着物 6 枚 (お宮参り用 0 歳男児祝い着 4 枚,七五三用 3 歳女児祝い着 2 枚)および袋帯 3 本(大人女性祝儀用)、各着物/帯の模様に対応した模様カード 9 セット、ワークシートである。

さらに成人式の着物姿として実物の男性用紋付袴と女性用振袖をマネキンに着付け教室内に展示した。

授業の解説にはパワーポイントを用いた。

3) 本時のねらい・授業の流れ

本時のねらいは、次の 2 点とした。

- ①着物の基礎知識として「振袖」・「紋付袴」・「黒留袖」の名称と特徴、着用場面を知る
- ②伝統模様の背景(模様の名前、由来など)を知り、着物には長い歴史を経たことによる奥深い文化的価値があることを知る(感じる)ことにより、伝統文化に対する興味関心の芽が育まれる(図 11)。

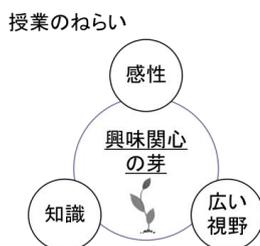


図 11 授業のねらい

授業の流れは表 2 に示す通りである。

なお、授業を構成する際に、昨年実施したアンケート調査と、本年の授業の前に実施したアンケート調査から生徒が歴史に興味を持っていることと、「着物とは何か」という本質的な問いを持っていることを受けて、日本における衣服の歴史の変遷(図 12)の紹介を授業に組み込んだ。

授業の前半では、教師が着物の歴史や通過儀礼の説明をし、中盤から『模様ワーク』を行い、最後に代表生徒の全体発表と、教師から授業のまとめを行った。『模様ワーク』の際に生徒にワークシートに記入するように指示し、授業終了時または授業後 1 週間以内に回収した。

3.2 アンケート調査の内容

授業の効果を調べる目的で、事前・事後の



図 12 衣服の歴史の変遷(一部省略)

アンケート調査を実施した。

1) 事前アンケート調査の内容

事前調査項目は表 3 に示す 14 項目からなる。

回答は調査項目により異なるが、7 件法(尺度:「1 全くそう思わない」、「2 そう思わない」、「3 あまりそう思わない」、「4 どちらでもない」、「5 ややそう思う」、「6 そう思う」、「7 非常にそう思う」)、2 件法(はい・いいえ)、自由記述法を用いた。

2) 事後アンケート調査の内容

事後調査項目は表 4 に示す 11 項目からなる。

回答は調査項目により異なるが、7 件法(事前調査と同じ)および自由記述を用いた。

表2 授業の流れ

	学習内容・指導内容	教師の働きかけ
導入 [5分]	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習内容を知る ○ワークシートの No.1 に基本的な着物の種類(紋付袴、振袖、黒留袖)を記入する ○前回(浴衣着体験学習)を振り返り、拘束感に対する生徒の意見が多いことを受けて、江戸時代では庶民は着物をきて活動的に生活をする工夫があったことを説明する 	<ul style="list-style-type: none"> *着物は日本の民族服であり、「KIMONO」は世界共通語であるほど日本の代表的な文化の一つであることを確認する *着物を文化として理解し、生徒自身が背景知識を持ち、国際化する社会のなかで海外の人にも着物について「自分自身の口で説明できるように」と働きかける
展開1 [5分]	<ul style="list-style-type: none"> ○着物の歴史を知る:衣服の歴史の変遷を奈良飛鳥時代～現代まで辿る 	<ul style="list-style-type: none"> *パワーポイントを使って説明する
展開2 [5分]	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の通過儀礼を知る ・通過儀礼の由来 ・「7歳までは神のうち」 ・着物の種類 	<ul style="list-style-type: none"> *パワーポイントを使って説明する *ボディに着付けた、紋付袴と振袖の実際の姿を見せて説明する *「振袖」、「紋付袴」、「黒留袖」の名称、形、着用場面を強調する。
展開3 [25分]	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統模様の背景知識を知る ・日本の地理、歴史、風土 ○伝統模様の種類を知る ・吉祥模様、自然模様、器物模様、器物模様 ○『模様ワーク』 ・4～5人の班に分かれ、実物の着物/帯と模様カードを用いて、生徒同士で協力し、模様を探す ・班の中で、自分が見つけた模様を説明しあう ・気に入った模様を1つ選び、理由とともにワークシートに記入する ○全体共有 ・代表者3名が着物を象徴するような印象的な模様とそれを選んだ理由、そこにこめられている想いなどを全体で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> *パワーポイントを使って説明する *東アジアの地理、古代からの歴史という広い視野を与える *模様の種類の大枠を説明する *生徒自身に模様を発見させるように促す *模様の意味を確認するように促す *生徒が感じたことを自由に発言するように促す *生徒の言葉が出てこない時は、教師が補助をして言葉を促す *発表者と同じ班の生徒に着物や帯を広げて持つように手伝いを支持する
まとめ [8分]	<ul style="list-style-type: none"> ○模様から読み取れることを理解する ・昔の生活環境を知り、その中で生み出された模様に込められた想いを知る ・昔も今も変わらない、人間の営みがあることを知る ○模様が身近に存在することを知る ○文化としての着物を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> *パワーポイントを使って説明する ・模様に様々な意味、歴史があり、日本の風土に合った自然が美しく表現されていること ・長い歴史の中で伝承されてきたこと ・近代以前は、医療技術、科学技術が未発達であり、生きていくこと自体が困難であり、その中で模様に願いが込められたこと
アンケート [2分]	事後アンケート配布・実施	時間が無い場合は、後日回収

表3 事前調査項目

回答方式	記号	質問内容	略式表記	事後の共通項目
7 件 法	X01	着物(和服)についてもっと知りたいまたは、着物(和服)に興味がある	着物興味	Y04
	X02	着物(和服)をもっと着てみたい	着付興味	Y03
	X03	着物(和服)は世界にほこれる日本の伝統文化のひとつだ	着物誇り	Y08
	X04	日本の伝統文化について、興味がある(着物[和服]以外のことでもよい)	伝統文化興味	Y06
	X05	成人式には和服で参加したい	成人式着物興味	Y05
	X06	日本以外の国の伝統文化や歴史を知りたい	他国歴史文化興味	Y09
	X07	和服の文化を大切に、伝えていきたい	和服伝承興味	Y07
	X08	日本や世界の歴史について学ぶことが好きだ	歴史興味	
	X09	普段着る服(ファッション)について考えるのが好きだ	ファッション興味	
2件法	X15	日本の伝統文化について、習い事をした経験がある[⇒「はい」と選んだ人に質問ですそれは、どのようなことですか?(記述欄有)]	伝統文化経験	
自由 記 述	X10	自分自身が、着物(和服)を着た体験について、自分で覚えていること、家族や周りの人に聞いた話などを書いてください	和服着装経験談	
	X11	『着物(和服)』からイメージする言葉や文を書いてください	着物イメージ	
	X12	着物(和服)について知っていることがあれば、書いてください	着物知識	
	X13	着物(和服)について知りたいこと、やってみたいことがあれば、書いてください	着物興味	
	X14	日本の伝統文化(全て)について知りたいこと、やってみたいことがあれば、書いてください	伝統文化興味	

表 4 事後調査項目

回答方式	記号	質問内容	略式表記	事前の共通項目
事後 件 法	Y01	着物(和服)に関する知識が広がった	着物知識拡大認識	
	Y02	日本の模様に興味があった	模様興味	
	Y03	着物(和服)をもっと着てみたい	着付け興味	X02
	7	Y04 着物(和服)についてもっと知りたい	着物興味	X01
	Y05	成人式には着物(和服)で参加したい	成人式着物興味	X05
	Y06	日本の伝統文化について、興味がある(着物[和服]以外のこともよい)	伝統文化興味	X04
	Y07	着物(和服)の文化を大切に、伝えていきたい	和服伝承興味	X07
	Y08	着物(和服)は世界にほこれる日本の伝統文化のひとつだ	着物誇り	X03
	Y09	日本以外の国の伝統文化や歴史を知りたい	他国歴史文化興味	X06
	自由記述	Y10	9月15日(火)の授業「通過儀礼と日本の模様」の感想や印象に残ったことを書いてください	
	Y11	「浴衣を着た授業」と、「通過儀礼・模様の授業」から、着物(和服)に対する、自分の考えをまとめてください		

表 5 調査対象者

		A 組		B 組		C 組		合計	合計(内訳)	
		男	女	男	女	男	女		男子	女子
		組人数	23	20	22	20	22		20	127
回収人数	事前調査	23	20	22	20	22	20	127	67	60
	事後調査	23	20	22	20	20	19	124	65	59
	ワークシート	20	20	21	20	19	19	119	60	59
有効回答数	事前調査	22	20	21	20	21	20	124	64	60
	事後調査	22	20	21	20	19	18	120	62	58

4. 結果

事前・事後のアンケート調査およびワークシートを回収し集計した。調査用紙の回収人数および、有効回答者数を表 5 に示す。回収人数の割合は、事前調査で男子 100%、女子 100%、事後調査で男子 97.0%、女子 98.3%、ワークシートで男子 89.6%、女子 98.3%である。調査用紙を回収し、7 件法による調査項目については、信頼性や回答の極端な偏りなどを確認した。回収人数に対する有効回答者数の割合は、事前調査で男子 95.5%、女子 100%、事後調査で男子 95.4%、女子 98.3%となった。分析方法は、単純集計と相関分析(ピアソンの r)を用いた。解析ソフトは SPSS ソフト(Ver.22)である。

4.1 物の着用経験、イメージ、知識、興味、伝統文化の習い事経験

事前アンケートにおいて、「着物のイメージ」、「着物についての知識」、「着物に対する興味」、「伝統文化の習い事経験」について質問した項目の集計結果を次に示す。なお、

質問項目 X14(日本の伝統文化に対する興味)については、欠損者が多いため分析項目から除外した。

1) 着物の着用経験

これまで着物(和服)を着た体験について、自身の記憶や家族から聞いた話などを自由に記述するように指示した。記述内容をキーワードを元に分類し集計した結果を表 6 に示す。

表 6 着物の着用経験

経験内容	男子 (n67)	女子 (n60)
七五三	24	38
祭り/花火	19	22
旅行・温泉旅館	6	0
その他通過儀礼(十三参)	0	2
その他(習い事、イベント等)	3	3
着たことがない	8	0
覚えていない	3	2
無記入	12	3

男女ともに記述数が多い経験は「七五三」であり、男子 24 人(35.8%)、女子 38 人

(63.3%)であった。次いで「祭り/花火」が挙げられた。

「着たことがない」「覚えていない」「無記入」の回答者の合計は男子 23 人(34.3%),女子 5 人(8.3%)と、男子の約 3 割が着用経験または記憶がなく、その人数は女子よりも多い。

現代における着物の着用機会は、儀礼や祭りなど非日常的な機会であるため、家族と一緒にいう行事が多い。家族形態や親世代の着物に対する考え方の変化が、子どもの着物に触れる機会に対して大きく影響することが考えられる。

2) 着物からイメージする言葉

生徒が着物から連想する言葉として記述した内容を分類し集計した結果、5 名以上の回答があった記述内容を多い順に表 7 に示す。

表 7 生徒が着物から連想する言葉 (n124) (複数記述)(カッコ内は記述数)

日本(32), 和/和風(26), 古い/古典/昔(25), 祭り(21), 面倒/着るのが大変/歩きにくい(14), 伝統/伝統的(12), 華やか/きれい/美しい(12), 京都(11), 夏(10), 清楚/しとやか/上品/落ちついている(10), お茶/お茶会(7), 七五三(7), 記念日/お祝い/儀式(7), 舞妓(5), 涼しい/動きやすい(5), 無記入(7)

生徒は着物に対して、「日本」「和」など日本を象徴するイメージを持っている。

「古い」「記念日」「華やか」といった現代とは切り離されたもの、非日常的なものとしてとらえていることがわかる。衣服の機能性に対しては、「面倒」「歩きにくい」といった否定的な印象をもつ生徒も多い。これは前述の着物の着用経験を質問した項目で、七五三の経験と共に、「苦しかった」「重かった」「歩きづらかった」など感想が多く記述されていたことと合わせて考えると、生徒自身の体験を伴う感想であると考えられる。

さらに少数だが、「外国人が好き」「KIMONO」という記述もあり海外を意識した視点を持つ生徒も認められた。

3) 着物の知識

「着物について知っていること」として生徒が記述した内容を分類し集計した結果、記述の多い内容の順に表 8 に示す。

回答は「模様がいろいろある」「何枚も着

ている」「帯をしめる」などの外観から得られる特徴についての記述が最も多い。

表 8 着物について知っていること

「回答の具体例」(n69) (複数記述)

着物の外観、色柄について(13)

「模様がいろいろある」「季節に合う模様をつける」「派手な色を使う」

着物特有の着用品、着装方法について(7)

「何枚も着ている」「帯をしめる」「右、左の順で胸元をしめる」「帯は長くてとても重い」

着物の種類について(10)

「浴衣」「十二単」「振袖」「男性用、女性用がある」

その他(19)

「帯の結び方を知っている」「値段が高い」「長く使える」「絹で作られている」「平安時代から広まった」「生地がうすくて夏は涼しい」

「わからない」「ない」(27)

無記入(57)

「分からない」「無い」の記述者と無記入の調査対象者の合計人数は 84 人で、全体の約 6 割以上となった。記述があった生徒も文字数が少なく、外観の様子についての内容も多いため知識として知っていることは少ないものと考えられる。

4) 着物に対する興味

「着物について知りたいこと、やってみたいこと」と尋ねた回答記述を内容ごとに分類した結果を表 9 に示す。

表 9 着物についての興味

内容	記述数
着方	36
柄、模様、色	26
種類、着用場面	21
歴史	11
作り方	7
その他	22
無記入	28

生徒の興味がある内容は「着方(着てみたい)」が最も記述数が多く、次いで「柄(模様、色)」、「種類(場面と種類)」、「歴史」となった。

着物は衣服であるため着る行為を伴う。また平面構成の衣服であるため着る行為に技術を要する。外観からは想像できない着装方法について疑問を持ち関心がわいたの

ではないか。さらに着た際に自身の外観がどのように変化するのかといった興味もあるのではないかと想像する。

「柄、模様、色」については着物の外観上の大きな特徴であり、特に女性の華やかな着物姿は魅力の一つとして目を引き、興味関心を持つ生徒が多いと考えられる。

「歴史」を記述する生徒は 11 人認められ、先述の通り着物を日本の文化の象徴ととらえている一方、現代では洋服の生活が一般的であることから着物のルーツや歴史の変遷に興味を持つことは当然であると考えられる。

一方で少数だが、「そもそも着物とは何か」「和服とはどのようなものなのか」「特徴を深く知りたい」「洋服との違いを知りたい」といった記述があり、素朴でありながら、本質的、根源的な問いがみられた。和服の特徴

さえ整理して理解できない、つまり自国の文化でありながら、異質なものであるという感覚が広がっているのではないかと推察される。

以上の結果から、着物に触れる経験は七五三や祭りなどで経験がある生徒も半数以上あり、現代でも着物を目にする機会は多い。しかし、生徒が知識として知っていることは少ないことが伺える。そもそも着物が何であるのか、という本質的な疑問もあり着物に対する知識としての理解は低いと考えられる。

5) 日本の伝統文化の習い事の経験

伝統文化の習い事の経験について尋ねた結果、男女ともに 4 割程度が「経験有」という結果となった。習い事の内容は「そろばん」、「習字」、「剣道」が多く、その他「空手」、「茶道」が挙げられた。

4.2 平均値、事前事後の変化、相関分析

1) 事前調査の平均値、男女の差

着物や着付けに対する興味、伝統文化や歴史に対する興味などを、7 件法を用いて質問した調査項目 9 項目(X1~X09)から男女別に平均値を算出し、男女の差の検定(t 検定)を行った。その結果を表 10 および図 13 に示す。

表 10 事前調査の平均値

略式表記	記号	質問内容	男子			女子			検定(男女)	事後の共通項目
			度数	平均値	SD	度数	平均値	SD		
着物興味	X01	着物(和服)についてもっと知りたいまたは、着物(和服)に興味がある	64	4.38	1.49	60	5.27	1.18	***	Y04
着装興味	X02	着物(和服)をもっと着てみたい	64	4.14	1.59	60	5.37	1.22	***	Y03
着物誇り	X03	着物(和服)は世界にほこれる日本の伝統文化のひとつだ	64	6.06	0.79	60	6.32	0.87		Y08
事前 伝統文化興味	X04	日本の伝統文化について、興味がある	64	5.36	1.43	60	5.52	1.26		Y06
成人式着物興味	X05	成人式には和服で参加したい	63	4.05	1.43	60	5.62	1.14	***	Y05
他国歴史文化興味	X06	日本以外の国の伝統文化や歴史を知りたい	64	5.42	1.29	60	5.27	1.23		Y09
和服伝承興味	X07	和服の文化を大切にして、伝えていきたい	64	4.94	1.23	60	5.43	1.01	*	Y07
歴史興味	X08	日本や世界の歴史について学ぶのが好きだ	64	5.66	1.35	60	4.93	1.41	**	-
ファッション興味	X09	普段着る服(ファッション)について考えるのが好きだ	62	3.61	1.45	58	5.09	1.69	***	-

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.0001$

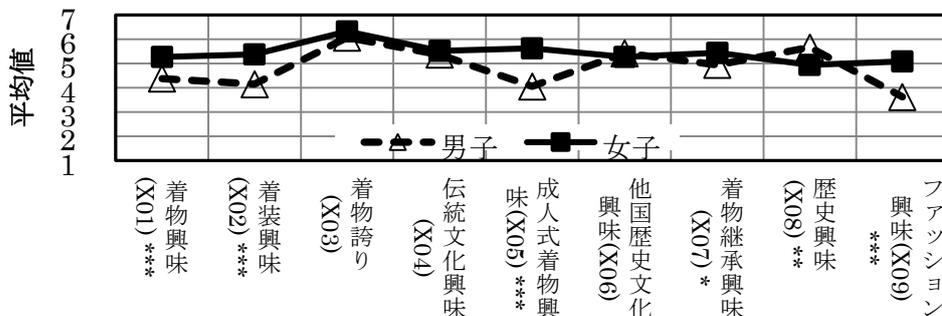


図 13 事前調査の平均値のプロットと男女の差の t 検定*: $p<.05$, **: $p<.01$, ***: $p<.001$)

事前調査項目の平均値は、男子の「ファッション興味(X09)」を除く全項目で、回答の平均値は4以上となり、質問に対して肯定的な回答となった。つまり、生徒は「着物」、「着物の着装」、「伝統文化」などに対して、興味関心をもつ傾向がある。男女の差については、9項目中5項目、「着物興味(X01)」「着装興味(X02)」「成人式着物興味(X05)」「着物継承興味(X07)」「ファッション興味(X09)」で男子よりも女子の平均値が有意に高く、女子の方が着物に対して興味関心が高いことがわかる。「歴史興味(X08)」のみ、男子の平均値が女子よりも有意に高く、一般的な「歴史」に関しては男子の方が女子よりも関心が高いことがわかる。

男子の平均値のプロットをみると、『「着物誇り(X03)」、「歴史興味(X08)」、「他国歴史文化興味(X06)」、「伝統文化興味(X04)」、「着物継承興味(X07)」』の5項目の平均値が、『「着物興味(X01)」、「着装興味(X02)」、「成人式着物興味(X05)」、「ファッション興味(X09)」』の4項目よりも相対的に高い。つまり、男子は着物に対して誇り意識は持つが、着物の着装など実践的な興味よりも、歴史・伝統文化などの文化的興味の方が高いと推察される。

女子の平均値のプロットをみると、「着物誇り(X03)」が一つ突出して高い値を示すが、その他8項目の平均値は約5.0～5.5の同程度の値を示している。女子では、「着装」などの着物に関する実践的な興味と、歴史・伝統文化などの文化的興味に対して同程度に関心を持っていると推察される。なお、「成人式着物興味(X05)」は、9項目中2番目に平均値が高く、これは、成人式における女子の振袖姿は社会現象にもなっており、これにより女子生徒の興味が喚起されていると考えられる。今年の成人式においてインタビューに答えた成人女性は「小学生の頃から派手な成人式にしたいと思っていた」⁵⁾と話し、成人式の振袖に対する関心は、小中学生にも広がる傾向があると考えられる。

なお「伝統文化の経験(X15)」の有無による平均値の差について、男女別に有意差検定(t検定)を行った結果、有意な差は認められなかった。したがって、「伝統文化経験の有無」は考慮せず、男女の差のみを考慮して分析を進めることとした。

2) 事前調査の相関分析

事前調査で7件法を用いて質問した9項目について相関分析を行い算出された相関係数を表11に示す。

表11 事前相関分析

【項目】

X01	着物(和服)についてもっと知りたい または、着物(和服)に興味がある
X02	着物(和服)をもっと着てみたい
X03	着物(和服)は世界に誇れる日本の 伝統文化のひとつだ
X04	日本の伝統文化について、興味があ る(着物[和服]以外のことでもよい)
X05	成人式には和服で参加したい
X06	日本以外の国の伝統文化や歴史を知 りたい
X07	和服の文化を大切に、伝えてい きたい
X08	日本や世界の歴史について学ぶこと が好きだ
X09	普段着る服(ファッション)について 考えるのが好きだ

【男子】

	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08	X09
X01	-								
X02	.814**	-							
X03	.463**	.508**	-						
X04	.638**	.632**	.477**	-					
X05	.356**	.431**	.240	.226	-				
X06	.586**	.508**	.359**	.705**	.309*	-			
X07	.654**	.724**	.490**	.566**	.328**	.583**	-		
X08	.425**	.322**	.313*	.397**	.125	.514**	.291*	-	
X09	.404**	.429**	.492**	.204	.431**	.253*	.452**	.160	-

【女子】

	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08
X01	-							
X02	.532**	-						
X03	.428**	.541**	-					
X04	.697**	.328*	.590**	-				
X05	.344**	.274*	.398**	.379**	-			
X06	.160	.249	.314*	.347**	.219	-		
X07	.427**	.417**	.589**	.473**	.264*	.326*	-	
X08	.041	.024	.045	.029	.163	.419**	.056	-
X09	.210	.316*	.159	-.017	.166	.095	.225	.365*

まず男子は、「着物興味(X01)」-「着装興味(X02)」間で強い相関がみられ、相互の関連性が高いことが示された。次に、「歴史興味(X08)」に注目すると、男子では「歴史興味(X08)」と「着物興味(X01)」、「着装興味

(X02)、「着物誇り(X03)」、「伝統文化興味(X04)」のそれぞれの項目との間に、0.3～0.4程度の弱～中程度の相関が認められた。これらについて、女子では無相関であった。ここから、男子においては「歴史」に対する興味が着物や伝統文化への興味にも繋がっていることが示唆される。

表 12 事後調査の平均値

略式表記	記号	質問内容	男子			女子			検定 (男女)	事後の 共通項目
			度数	平均値	SD	度数	平均値	SD		
着物知識拡大認識	Y01	着物(和服)に関する知識が広がった	62	5.94	0.74	58	6.22	0.68	*	-
模様興味	Y02	日本の模様に興味があった	62	6.00	0.87	58	5.97	0.82		-
着装興味	Y03	着物(和服)をもっと着てみたい	62	5.89	1.10	58	6.31	0.84	*	X02
着物興味	Y04	着物(和服)についてもっと知りたい	62	5.52	1.08	58	5.67	0.89		X01
成人式着物興味	Y05	成人式には着物(和服)で参加したい	62	5.13	1.53	58	6.29	0.84	***	X05
伝統文化興味	Y06	日本の伝統文化について、興味がある	62	5.65	0.99	58	5.64	1.04		X04
和服伝承興味	Y07	着物(和服)の文化を大切に、伝えていきたい	62	5.76	0.95	58	5.95	0.91		X07
着物誇り	Y08	着物(和服)は世界にほこれる日本の伝統文化のひとつだ	62	6.44	0.69	58	6.64	0.58		X03
他国歴史文化興味	Y09	日本以外の国の伝統文化や歴史を知りたい	61	5.67	1.06	57	5.42	1.15		X06

* $p < .05$, *** $p < .0001$

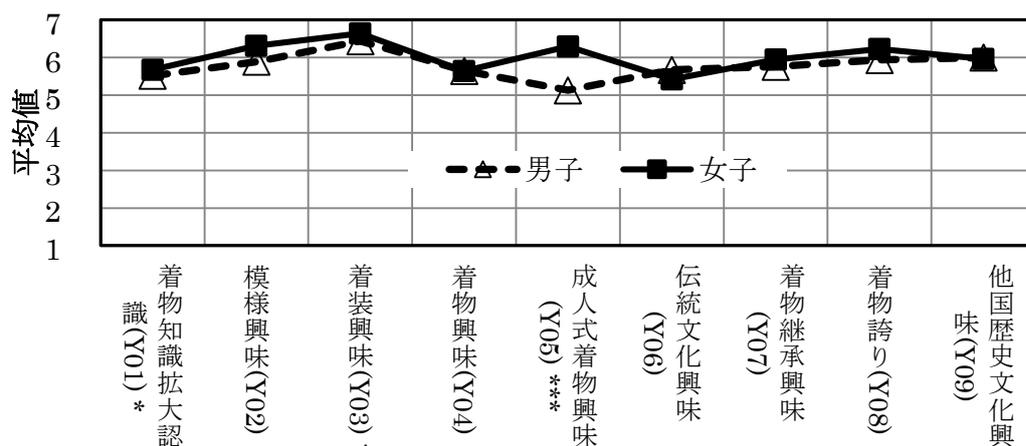


図 14 事後調査の平均値のプロットと男女の差の t 検定*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

男女ともに全項目で平均値は5以上となり、質問項目に対して肯定的な回答となった。男女の差は9項目中3項目で認められた。男女の有意差がみられた「成人式着物興味(Y05)」については、前述のとおり成人式において、女性の振袖姿は定番の姿であるが、男子では着物姿は少数派であり、中学生の男子は成人式の服装に想像がおよばないと考えられる。したがって、「成人式着物興味(Y05)」ではこのような社会的要因が大きく影響し、男女の関心に差がみられたと考えられる。

「着物知識拡大認識(Y01)」の平均値は、男子5.94、女子6.22であり、一連の着物の学習を通じて、多くの生徒が男女ともに着物の理解を深め、知識を獲得した認識があることが示された。男女の平均値に有意差が認められたが、その差は0.28とわずかであった。「模様興味(Y02)」の平均値は、男子6.00、女子5.97と有意差はなく、多くの生徒が男女ともに興味を持って模様を題材とした本研究授業の学習に取り組めたことが示された。「着物誇り(Y08)」の平均値は男子6.44、女子6.64と、事後調査においても最高値を示し、着物への誇り意識は男女ともに非常に高いことがわかる。なお、授業順による影響を検討するため、A組、B組、C組の各項目の平均値について、男女別に対応のない一要因の分散分析(Scheffe)を行った。その結果、有意差があった項

目は次に示す女子の1項目のみであった。

『「他国歴史文化興味(Y09)」(女子) : A組平均値5.85・B組平均値4.90、($p<.05$)』

「他国の歴史文化」については、授業で直接的に取り上げたテーマではないため、授業順との関連が薄いと見え、組間の差は考慮しないこととした。

4) 事後調査の相関分析

上述の事後の調査項目9項目について相関分析を行った。各項目間の相関係数を表13に示す。

「模様興味(Y02)」とその他の8項目の相関係数をみると、男子では8項目全ての間で相関係数0.3以上の正の有意な正相関が認められた。女子では、6項目の間で相関係数0.3以上の正の相関が認められた。模様を題材とした学習が、「着物」、「着装」、「伝統文化」などの興味を向上させる効果があったと考えられる。中でも、「模様興味(Y02)」-「着物興味(Y04)」間で男子 $r=.698$ ($p<.01$)、女子 $r=.518$ ($p<.01$) と最も高い正の相関を示し、授業を通じて模様に興味を持ったことが、着物に対する興味を向上させる効果があったと考えられる。

「着物知識拡大認識(Y01)」と「着付興味(Y03)」、「着物興味(Y04)」、「着物継承興味(Y07)」間で相関係数0.4~0.5の正の有意な相関が男女でみられた。つまり、着物の知識を獲得した意識が高いほど、着装への興味、着物への興味、継承意欲が高まる傾向がある。

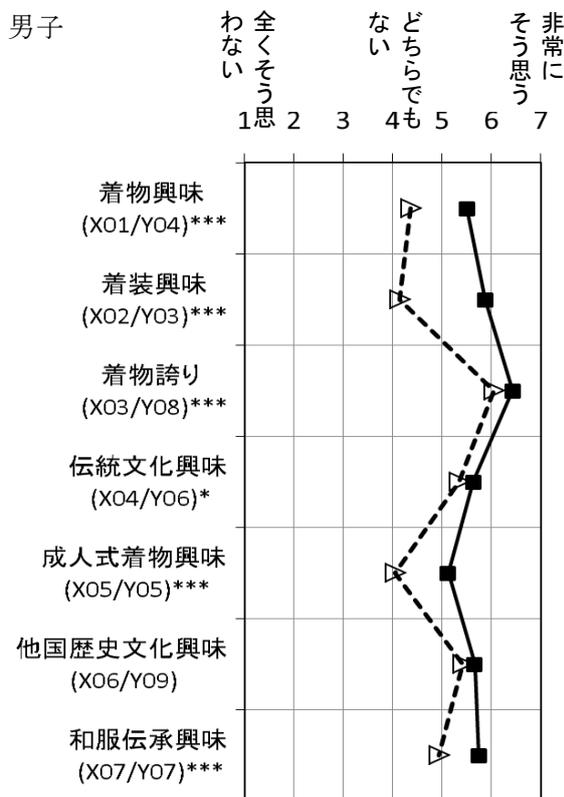
表 13 事後相関分析

【項目】									
Y01	着物(和服)に関する知識が広がった								
Y02	日本の模様に興味がわいた								
Y03	着物(和服)をもっと着てみたい								
Y04	着物(和服)についてもっと知りたい								
Y05	成人式には着物(和服)で参加したい								
Y06	日本の伝統文化について、興味がある(着物[和服]以外のことでもよい)								
Y07	着物(和服)の文化を大切にして、伝えていきたい								
Y08	着物(和服)は世界にほこれる日本の伝統文化のひとつだ								
Y09	日本以外の国の伝統文化や歴史を知りたい								
【男子】									
	Y01	Y02	Y03	Y04	Y05	Y06	Y07	Y08	Y09
Y01	-								
Y02	.457**	-							
Y03	.511**	.616**	-						
Y04	.531**	.698**	.489**	-					
Y05	.454**	.604**	.417**	.414**	-				
Y06	.301*	.418**	.232	.402**	.225	-			
Y07	.417**	.376**	.317*	.298*	.303*	.202	-		
Y08	.374**	.409**	.345**	.373**	.333**	.324*	.610**	-	
Y09	.340**	.405**	.397**	.407**	.258*	.600**	.164	.290*	-
【女子】									
	Y01	Y02	Y03	Y04	Y05	Y06	Y07	Y08	Y09
Y01	-								
Y02	.491**	-							
Y03	.523**	.399**	-						
Y04	.446**	.518**	.444**	-					
Y05	.192	.220	.267*	.179	-				
Y06	.318*	.441**	.332*	.460**	.023	-			
Y07	.477**	.425**	.504**	.437**	.228	.334*	-		
Y08	.343**	.268*	.126	.343**	.149	.185	.296*	-	
Y09	.035	.394**	.016	.383**	.034	.366**	.218	.181	-

* $p<.05$, ** $p<.01$

5) 事前事後の変化

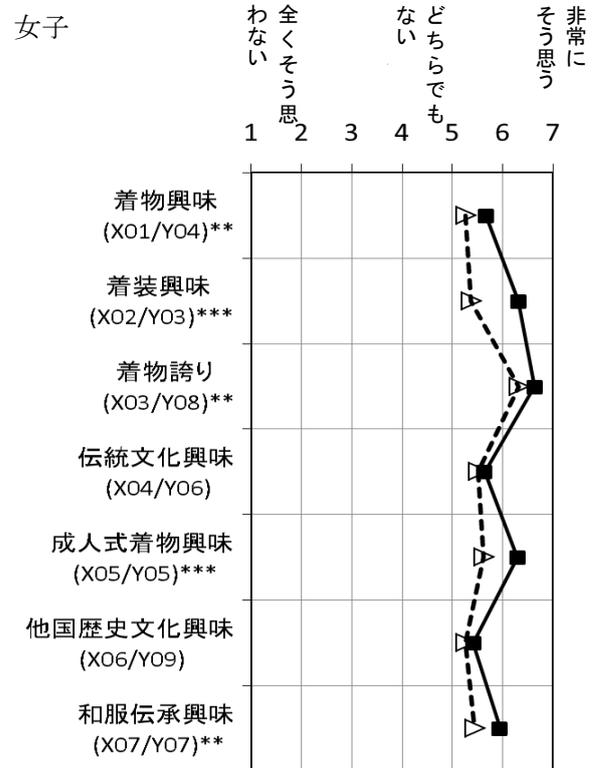
事前事後で共通する質問項目 7 項目について、授業の効果を検証する目的により授業前後の生徒の意識の変化を調べ、男女別に有意差検定(t 検定)を行った。その結果を図 15(男子)、図 16(女子)に示す。



* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

点線：事前、実線：事後

図 15 事前事後の平均値の比較(男子)



* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

点線：事前、実線：事後

図 16 事前事後の平均値の比較(女子)

男子の平均値の有意差は、7項目中6項目(「着物興味(X01/ Y04)」、「着装興味(X02/ Y03)」、「着物誇り(X03/ Y08)」、「伝統文化興味(X04/ Y06)」、「成人式着物興味(X05/ Y05)」、「着物継承興味(X07/ Y07)」)で認められ、いずれも事前より事後の平均値が有意に高い値を示し、これらの項目の興味関心が授業後に有意に向上したことが認められた。

特に、男子の「着装興味(X02/ Y03)」(平均値の差1.75)で、前後の変化が顕著である。次いで「着物興味(X01/ Y04)」(平均値の差1.14)、「成人式着物興味(X05/ Y05)」(平均値の差1.08)、「着物継承興味(X07/ Y07)」(平均値の差0.82)で前後の差が大きい。

先述の、事後調査の相関分析(男子)より、「着装興味(Y03)」は、「着物知識拡大認識(Y01)」および「模様興味(Y02)」との間で相関係数0.5~0.6程度の正の有意な相関がみられた。このことから、本研究授業および浴衣の着装学習を通して、生徒が知識を獲得したことが、着装興味の喚起に影響があったと考えられる。

さらに男子について、先述の事後調査の相関分析(男子)より「着物興味(Y04)」、「成人式着物興味(Y05)」、「着物継承興味(Y07)」についても、「着物知識拡大認識(Y01)」および「模様興味(Y02)」との間で、それぞれ0.3~0.7程度の正の有意な相関がみられた。このことから、生徒が「学習を通じて知識を獲得したこと」、「模様に対する興味が芽生えたこと」が影響し、「着物に対する興味」、「成人式という儀礼の場で着物を着用する興味」、「着物を継承する興味」といった意識が喚起され、興味が向上したと考えられる。

女子の平均値の有意差については、7項目中5項目(「着物興味(X01/ Y04)」、「着装興味(X02/ Y03)」、「着物誇り(X03/ Y08)」、「成人式着物興味(X05/ Y05)」、「着物継承興味(X07/ Y07)」)で、事前より事後の平均値が有意に高い値を示した。「着装興味(X02/ Y03)」(前後の差0.94)で前後の変化が最も大きく、次いで「成人式着物興味(X05/ Y05)」(前後の差0.68)、「着物

継承興味(X07/ Y07) (前後の差0.51)、「着物興味(X01/ Y04) (前後の差0.41)で差が大きい傾向がみられた。「前後の差の値」は、男子より小さいが、変化が認められた項目は男子と類似しており、直接的に着物に関連する項目で、事前・事後の有意な変化がみられたことがわかる。

さらに女子について、先述の事後調査の相関分析(女子)より、「着装興味(Y03)」は、「着物知識拡大認識(Y01)」および「模様興味(Y02)」との間で0.4~0.5程度の正の有意な相関がみられた。「着物継承興味(Y07)」、「着物興味(Y04)」については、「着物知識拡大認識(Y01)」および「模様興味(Y02)」との間で0.4~0.5程度の正の有意な相関がみられた。これより、男子同様に女子も、授業を通して、生徒が知識を獲得し、着物に対する理解を深めたことが影響し、「着装興味」、「着物継承興味」、「着物興味」といった意識が向上したと考えられる。

なお、女子の「成人式着物興味(Y05)」については、「着物知識拡大認識(Y01)」および「模様興味(Y02)」との間に有意な相関が無く、数値調査項目からは授業の効果と「成人式着物興味(Y05)」向上の関連性は、認められなかった。

以上の結果より着物に関する2回の授業が、男女の生徒において着物や、着物文化に対する興味関心を全体的に向上させたことが示された。また、授業を通じて知識を獲得し、模様に興味が生じたことが、これらの興味関心の向上に影響があったと示唆された。

4.3 ワークシートの調査結果

授業の際に配布したワークシートを回収し、生徒の記述内容を集計した。ワークシートでは、生徒が好きな模様を選び、その名前、模様の図(記入時間がある場合のみ記述)、理由とともに記述している。さらに、「授業を通してわかったこと」を記述する欄を設けた。なお、「授業を通してわかったこと」の記述欄については、A組の生徒には授業中に記述を指示したが、B組とC組の生徒には、時間の都合上、「記述は不要」と指示した。したがって、この欄の記述は、A組の生徒のみから得られた。

生徒の記述の具体例は図17に示すように、「気に入った模様(印象に残った模様)」と、「理由」がワークシートに記述されている。

ワークシートの記述内容を集計し分析した結果を次に示す。

(生徒が選んだ模様)

(選択の理由)

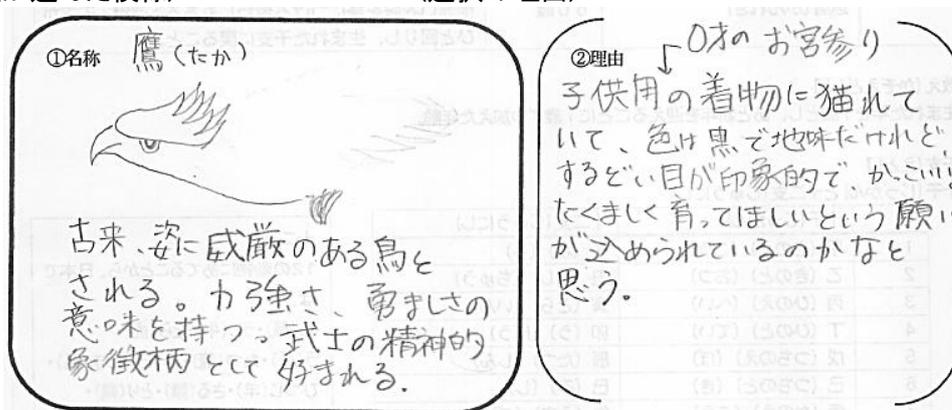


図 15 ワークシートの回答例

1) 生徒の記述例と気づき

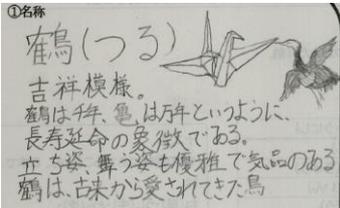
まず、生徒たちの記述のうち、代表的な回答例を以下に示す。

① 生徒 A(女子)

選んだ模様	選んだ理由	模様ワークでの発見
<p>撫子</p>	<p>色が上手に使われていて、花が美しく描かれている。撫子の葉と色と形がきれい。鮮明に撫子のギザギザや、葉の垂れなどが描かれていて、美しい</p>	<p>帯だけでこんなにていねいにぬわれていたりとすごいと思う。着物に願いがちゃんとこめられていて、最初はここまでの必要ある？とかおもっていたけど、この着物に入りきらないくらいの願いがあったことがわかった。</p>

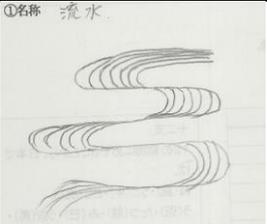
女子生徒 A は、撫子の形や色使いの美しさと同時に花びらの細かい線を観察し、丁寧に花びらが織り出されていることに気づいた。さらに模様の意味を知ったことで、単なる美しい帯ではなく、願いが込められた帯であるという認識を持った様子が伺える。

② 生徒 B(男子)

選んだ模様	選んだ理由	模様ワークでの発見
鶴 	笹にかくれているが、大きくはばたいているような存在感を表していた。昔から鶴のように長く大きく生きてゆく必要を語っているように感じたし、着物として大きい鳥が入っていることで、着た人本人の存在感や美しさが表れると思ったから。	着物には一つ一つに意味があって、服なのに芸術のような美しさがあると思った。また着る用途によって意味が違う柄が使われていることもすごいと思った。

男子生徒 B は、躍動感のある鶴の姿を観察し、昔の人も長寿を願っていたことに共感している。さらに、着物の着用者にも想像をふくらませている。帯の芸術的な美しさと模様のもつ意味、着用者との関連性に気づきを得た様子が伺える。

③ 生徒 C(男子)

選んだ模様	選んだ理由	模様ワークでの発見
流水 	つなぎの部分のなめらかなところがいいと思った。シンプルな作りだけど、流水の流れがとてもよくわかって見た目がすごくきれい。説明にもあるように「千変万化する」という意味も伝わってくる模様。	(記述無し)

男子生徒 C はデフォルメされた流水のデザインに洗練された美を感じ取り、絶えず変化しつづける水の表現に面白さを見出した様子が伺える。

このように、生徒たちはデザイン、模様の意味、着用者の状況や心情など様々な角度から教材に描かれる模様を捉え、生徒自身の興味によって主体的に観察していることが認められた。

2) 選択模様

以上に示したように、各生徒が選択した模様の名前を集計し分類した結果、43 種類の多様な模様が選ばれていた(表 15)。

表 15 生徒が選択した模様

分類 1	分類 2	模様の名称	人数	割合	分類 1	模様の名称	人数	割合
自然	花	桜	9	20.2%	動物 昆虫	鷹	10	32.8%
		菊	6			蝶	9	
		牡丹	3			鶴	8	
		撫子	2			鳳凰	5	
		藤	1			龍	4	
		菖蒲	1			亀甲	3	
		桔梗	1			手毬	4	
	梅	1	兜	3				
	樹木	松竹梅	6	10.9%	器物	扇・地紙	3	13.4%
		紅葉	3			宝船	2	
		蔦	1			和太鼓	1	
		橘	1			軍配団扇	1	
		桐	1			打出の小槌	1	
唐草		1	色紙			1		

環境	青海波	4	7.6%	幾何学 その他	三つ巴	4	15.1%
	流水	1			七宝	4	
	波	1			花菱	2	
	露芝	1			格子	2	
	竹	1			切金	2	
	霞	1			宝相華	1	
					四つ菱	1	
					桧垣	1	
					宝尽くし	1	

選択人数が多い模様は、多い順に「鷹」(10人)、「桜」(9人)、「鶴」(8人)、「菊」(6人)、「松竹梅」(6人)となった。どれも今でも身近にあり、親しみをもちやすい模様である。「鷹」は、教材とした男児の着物の背に、躍動感あふれる姿で大きく描かれひときわ存在感がある模様であった。「勇敢である」といった意味は、鷹の鋭い目つきによく表現されている。このように、インパクトがあり捉えやすい模様であることから、多くの生徒が選択する題材であったと考えられる。「桜」は、今も身近な花の一つであり、日本を象徴する美しい花である。そのため、「桜」が印象に残る生徒が多かったと考えられる。

このような身近な動物、植物、自然現象以外にも、「鳳凰」、「龍」といった空想上の生き物、「軍配団扇」、「手毬」など現代では通常、実物を目にする機会がないもの、あるいは「切金」、「格子」など普段気にもとめないさりげないものの模様まで選ばれており、生徒の多様な感性によって模様が選ばれたと考えられる。生徒は、模様の外観の美しさやデザイン性だけではなく、「名前」、「意味」、「由来」を知り、“何が表現されているか”を理解した上で、模様に興味を持つことができたと考えられる。

表 15 に示した分類別にみると、「桜」、「菊」など「自然」分類の模様を選んだ生徒が 46 人(全体の 38.7%)と多い。これは、教材の中で「自然」分類の模様の占める割合が、約 3 割～6 割程度(教材により異なる)と比較的多いことが理由の一つだろう。また、“自然”は今でも我々の身近にあり普遍的な価値があるため、当然、興味関心を持ちやすい題材であるといえる。

3) 模様を選んだ理由、生徒の気づき

生徒が模様を選んだ理由として記述した内容を、大きく「デザイン」「模様の意味」「自然」「個人的な想い」「その他」に分類し集計した。その結果、表 16 に示すように「デザイン」、「模様の意味」を理由として挙げた生徒が全体の約 6 割以上であり、視覚的要素であるデザイン性のみならず、教師のねらい通りに模様の持つ意味についても着目し『模様ワーク』に取り組んでいたことが確認できた。先述の生徒の記述例で示したように、生徒は「デザイン」と「模様の意味」を複合的に捉えて、選択の理由にしている生徒も多くみられた。特に、模様を持つ「めでたい」「縁起がいい」という意味を記述する生徒も目立ち、幸福への祈りは普遍的な人間の感情であるため、模様の持つ意味の中では共感しやすい内容であると考えられる。

なお、ここで「デザイン」に分類した記述内容は、美術的美しさ、デザイン化する面白さ、模様の配置の巧妙さ、力強さ、動物・昆虫の躍動感、幾何学パターンの面白さなど、生徒の興味の対象は様々であった。

表 16 模様を選んだ理由

(n119)。(複数記述)

No.	分類	人数	割合	記述内容、「記述例」
1	デザイン	76	64%	模様のもつ美しさ、図案化された面白さ、構図のバランス、躍動などの表現を捉えた内容の記述を分類。 【記述例】:「美しい」「色がきれい」「ダイナミック」「華やか」「存在感がある」「色使いがうまい」「迫力がある」「大きく描かれている」「カッコイイ」「きれい」「立体的な感じがする」など
2	模様の意味	74	62%	模様の背景にあり、人間が想いを込めた意味や由来についての記述を分類 【記述例】:「縁起がよい」「模様の意味が伝わってくる」「模様の意味が伝わってくる」など
3	自然	3	3%	自然の表現についての記述を分類

				【記述例】:「季節を感じる」「様々な風景が見られる」など
4	個人的な 想い	36	30%	模様が持つ特徴や意味から生徒が想像をふくらませ、生徒自身の心情を加えている内容がある記述を分類 【記述例】:「見たことがある」「自分を守ってくそう」など
5	その他	7	6%	その他 【記述例】:「中国からシルクロードを通じて日本へきたことがわかったから」「中央アジアなど広い地域に分類する」など

「個人的な想い」に分類した理由を記述した生徒は全体の約 3 割みられ、具体的な記述は「よく見る模様」「“天下安泰につながるといわれる” という意味でしっかりと他の人のことも考えているところが自己中心的ではなくすばらしいと思った」など、模様に生徒自身の経験に関連付けたり、想像を膨らませて思考する態度も認められた。

「その他」に分類した記述例では、「中国からシルクロードを通じて日本へきたことがわかったから」など、授業の前半の説明内容をふまえて地理的、歴史的に広い視野で模様を捉える態度も認められた。

このように多くの生徒が、デザインとしての美しさや面白さを感じ取り、さらに模様の意味にも注目して観察学習する態度が認められた。また、生徒自身の心情をともなった記述が多く、今回の学習で共感的理解が行われたことが認められた。

4.4 事後調査：授業の感想、着物に対する意識

事後調査において、「本研究授業に対する感想」および「浴衣着装学習を含む一連の着物文化の学習から着物に対する生徒の考え」を尋ねた 2 項目の記述内容について集計した結果を次に示す。

1) 本研究授業の感想

「本研究授業の感想や印象に残ったこと」として生徒が記述した文章をキーワードや内容を元に分類した。表 17 に示すように、模様に関する記述が最も多く、その中でも「模様に意味がある」ことを認識した内容の記述が 86 件認められた。

記述例「1 つの着物に 10 個以上の模様があり、さらにそれぞれの意味があったことに驚いた」など、驚きや面白さを伴って模様の背景知識を知ったことが、生徒の印象に残り「知識獲得」の意識に繋がっている様子が伺えた。

表 17 本研究授業に対する感想の記述

(n116), (複数記述)

態度	分類	内容	記述数	記述の具体例
知る わかる	模様	意味	86	「模様 1 つ 1 つにそれぞれ意味があることをしりました。ただ単にキレイという理由だけでなく、意味も兼ね備えているのですごいと思いました。」「僕は着物の模様にあまり関心がなかったけれど、模様には色々な意味がありおどろきました。」
		種類	16	「一つの着物から沢山の柄が見つかり驚いた。」
		年齢、性別、 儀式ごとの模 様付	16	「通過儀礼と日本の模様には深い関係があることが分かりました。子供の着物には遊び道具の柄がかかれていたり、男の子の着物には龍がかかれていて、健康や元気に育ってほしいという願いをこめて着られていたのだと思いました。」
		美しい、豊か な表現力	11	「私が選んだ牡丹は色あざやかでとてもきれいだった。」「様々な願いを模様で表せるなんて表現力が豊かだったんだなと思いました。」「着物に使われている模様はとても繊細で美しいと思いました。ワークシートに模様を描いて、改めて実感しました。」
		身近なもの	4	「青海波は校章にも使われているので印象に残った」
		他	3	「覚えにくい、分かりにくい」
	通過 儀礼	様々な機会が ある	11	「七五三と成人式ぐらいしか知らなかったけど、お宮参りや長寿の祝いなど自分の知らないものがたくさんあって、着物を着る機会は意外とたくさんあるんだなあとと思いました。」
		由来・意味が ある	4	「全てのもの(模様・儀式)に意味があり、日本の文化の良さが分かった気がしました。」

着物	種類・ルール	15	「男女で着る着物に違いがあったり、日本の和の文化は面白いと思った。」	
	歴史	17	「今回の学習でその一つ一つに意味や歴史が詰まっていることをしり、着物が日本の伝統であることを改めて感じました。」「以外と昔の模様が今も使われていてすごいなあと思った。」	
	日本らしさ	5	「日本の文化である」「日本独自のものである」	
	風土	3	「日本はすぐ自然を大切にしている、模様も自然のものが多かった。」	
	その他	他	16	「和服は古くからあるが、洋服は明治時代に西洋から取り入れたもので長い歴史はないということ。」
深める	学習意欲・実践意欲	日本文化	3	「もっと着物文化を知りたい」
	着装	2	「成人式には着物を着たい」	
	模様	10	「校章にも模様があると知って、身近にもいるあるのではないかと興味を持ったので探してみようと思った。」「もっと模様の意味や季節など知りたい」	
	その他	1	「他の国の文化を知りたい」	
	伝承	2	「伝統だから残していきたい」「大切にしたい」	
他	その他	16	「実際に帯に触れて説明を聞いて、着物を身近に感じる事ができた」「みんなで模様を探したこと」	
無記入		11		

その他、模様のもつ美しい表現力、通過儀礼の由来、歴史的な背景、日本の風土である自然の表現など、背景知識を得たことが生徒の印象に残っている様子が伺える。

一部の生徒は、実際の帯や着物に触れたこと、他の生徒との共同作業であったにも言及しており、実物を用いることや、協働学習であることも効果的であることが示唆された。

今回の研究授業では、伝統模様を軸として、歴史、風土、現代の生活や儀式にまで関連付けて授業を組み立てた。さらに、過去に生きた人々の営みの結果として生み出されてきた文化として説明した。それにより、着物の文化を生徒が理解しやすいものとなったことと考える。

「子どもの成長を楽しみにする周りの人の気持ちが着物を通じて読み取ることができた」(生徒の記述)とあるように、着物に人間の想いがあることに共感しており、これは時代を越えて通じあえることである。

2) 着物に対する意識

一連の着物学習を終えて『「浴衣を着た授業」と、「通過儀礼・模様の授業」から、着物(和服)に対する、自分の考えをまとめてください』と指示し、生徒が記述した内容を集計した。その結果を表 18 に示す。

表 18 着物に対する生徒の考え

(n116), (複数記述)

分類	分類 1	記述数	「回答の具体例」、(要約)
浴衣	浴衣の着心地に対する否定的な感覚	61	「難しい」「面倒」「動きづらい」「苦しい」
	浴衣の着心地に対する肯定的な感覚	34	「涼しい」「動きやすい」
	浴衣着装の高揚感	5	「違う気分になれる」「うれしい」「楽しい」「お祭り気分」
	浴衣のその他の感想	4	「貴重な経験」「毎日着たくない」「意外と簡単」
模様	模様についての気づき	32	「種類がたくさんある」「意味がある」「美しい」「奥深い」
日本文化	日本文化への理解(独自の文化)	25	「日本の文化」「日本らしい」「日本独特のもの」
	日本文化への理解(歴史・伝統)	22	「深い歴史がある」「伝統がある」「昔の工夫、知恵が詰まっている」
和服	和服の美しさへの肯定	9	「美しい」「華やか」「上品」
	着物の種類、着用機会の知識獲得	6	(ルール/種類/機会について理解した)
	和服への肯定的感想	8	「和服はよいもの」「よい服」「儀式にふさわしい」「縁起がいい」「価値がある」

継承	継承意欲	24	「伝統だから残していきたい」「大切にしたい」「後世に伝えていきたい」
実践	機会減少の認識	4	(着る機会が少ない/今後さらに減少する)
	着装実践意欲(成人式)	8	「成人式には着物を着たい」
	着装実践意欲(成人式以外)	43	「様々な行事で着物を着たい」「できるだけ着る機会を増やしたい」「また着たい」「丁寧に着たい」
	「着物」/「模様」学習意欲	9	「もっと着物文化、模様への理解を深めたい」
海外発信	海外発信意欲	4	「海外に発信していけたらいい」「外国人に紹介したい」
他	特別感	3	「特別な気持ち」「特別な日に丁寧に着たい」
	現代と異なる価値観	2	現代とは異なる価値、価値観
	異文化への関心	1	他の国の文化を知りたい。
	その他	9	「高そう」「ファストファッションの時代に見習うべきもの」
未記入		8	

記述数が最も多い記述内容は、「浴衣の着心地に対する否定的な感想」であった。浴衣に対して「面倒」「苦しい」など着心地の悪さを感じる生徒が約半数みられた。一方で、浴衣に対して「涼しい」「動きやすい」など着心地に肯定的な感覚を持つ生徒が約3割みられた。どちらの感覚も着装体験により得た身体感覚であり、印象が深く刻まれた様子が伺える。

模様に関する記述から、生徒は模様について、美しく日本の奥深さを感じる「良いもの」として肯定的にとらえる様子が認められた。

「日本文化」に関する記述からは、「深い歴史」、「日本独自の文化」といった、着物を日本の文化としてとらえ、その価値に気づく様子が認められた。

「着物(服として)」に関する記述からは、「儀式にふさわしい」、「美しい」、「縁起の良い服」といった、礼装の着物として肯定的に捉える様子が認められた。

このような着物の奥深さや美しさなどに「良さ」を発見したことで、生徒に着物文化を尊重する態度が芽生え、「残していきたい」といった「継承意欲」、「できるだけ着る機会を増やしたい」といった、「着装実践意欲」の意識につながる様子が伺えた。

なお、「着装実践意欲」の記述は生徒全体の約4割で認められた。具体的な実践内容は、記述例を以下に示すように、「特別な日の服(ハレの日の服)」として着装する」といった内容が目立った。

(生徒の記述例)

- 「日常着としては不便だけれど、儀式などでは着たい。後世に残したい」
- 「何かのイベントの時には和服をきちんと着てこの日本の伝統文化を残していきたい」
- 「成人式やなにかの節目の時には着たいなと思いました。和服は美しいけれど、実際は重くて動きにくかったです。やはり日本人としては和服を着こなしていきたいと思うので、着るときには楽しみながら着ることも大切にしたいと思いました」
- 「着物は伝統文化であり、歴史を肌で感じられる分、洋服に比べ着づらく日常着には向きませんが、授業で取り上げたようにおしゃれ着の一環として関わっていききたいと思います」

つまり、生徒の着物に対する考え方は次のような傾向があると考えられる。

『着付けや着心地には否定的であるため「日常的な服」として関わる意欲は低い、文化的な価値を知って、「特別な日の服」として関わる意欲を持った』。

生徒は授業を通じて着物の知識を得たことで、着物に対する関わり方の一つの基準を持つことができたといえる。

少数だが、(生徒記述例)「洋服よりも昔からある、日本の伝統的な服なので、外国の人に紹介したいと思いました」というように、海外発信の意欲もみられた。

3) 生徒の変化

授業を通じた生徒の変化をより詳細に調べる目的で、2名の生徒の事前、事後調査の回答およびワークシートの記述を取り上げて検討する。なおこの2名は、「事前調査では着物に対する興味

関心が低く、事後調査で興味関心が向上した生徒」という基準により選んだ。

① 生徒 D(男子)

表 19 生徒 D の記述

【事前調査】							
● 着物着用の経験:「無し」							
● 着物について知っていること:「無し」							
【事前・事後の回答の変化】							
	着物興味	着装興味	着物誇り	伝統文化興味	成人式着物興味	他国歴史文化興味	和服継承興味
事前	2 そう思わない	2 そう思わない	6 そう思う	4 どちらでもない	2 そう思わない	5 ややそう思う	5 ややそう思う
事後	4 どちらでもない	3 あまりそう思わない	5 ややそう思う	5 ややそう思う	3 あまりそう思わない	5 ややそう思う	6 そう思う
	歴史興味	ファッション興味		着物知識 拡大認識	模様興味		
事前	5 ややそう思う	5 ややそう思う		5 ややそう思う	5 ややそう思う		
事後				5 ややそう思う	5 ややそう思う		
【選んだ模様】				【選んだ理由】			
「蝶」 				蝶がさなぎから羽化するように「復活・変化」というところから「不老不死」の意味をもったり「蝶」を「長」と変え「長寿」の意味ももつ。なぜ選んだかという、いろいろな意味をもっているし、意味の元となったもの着目しているところがおもしろいと思ったから。			
【事後調査】				【『模様ワーク』での発見】			
● 授業の感想:「着物には様々な模様があり、その一個一個に意味がこめられていると初めて知った。また、きものを着る年によって意味が異なるということを知り、日本の伝統文化は奥が深いと思いました。」				「蝶一匹一匹が違う色だと思った」			
● 着物に対する考え:「浴衣を着ると心が一転し(お祭り気分)になれた。浴衣は動きづらかったけど、昔の人は浴衣を着て色々動いていてすごいと思った。」							

男子生徒 D(表 19)は、事前調査から着物着用経験がなく、着物の知識が乏しい様子が伺える。事前の「着物興味」、「着装興味」は低い。「着物に対する誇り意識」はある。生徒は、模様の観察で「蝶」を選択し、“蝶が生まれてから成長し変化するという姿”に、“人間の成長の変化”を重ねた意味に面白さを発見している。事後調査から浴衣の着装体験で「お祭り気分」の高揚感を得ている。授業結果、事後で着物や着装に対するさらなる学習意欲はないようだが、着物文化に対しては「奥深さ」を感じ、尊重する態度が芽生えた様子が認められた。

② 生徒 E(女子)

表 20 生徒 E の記述

【事前調査】							
● 着物着用の経験:「(記述無)」							
● 着物について知っていること:「分からない」							
【事前・事後の回答の変化】							
	着物興味	着装興味	着物誇り	伝統文化	成人式着	他国歴史	和服継承

				興味	物興味	文化興味	興味
事前	1 全くそう 思わない	4 どちらで もない	5 ややそ う思う	1 全くそう 思わない	4 どちらで もない	2 そう思わ ない	4 どちらで もない
事後	4 どちらで もない	6 そう思う	6 そう思う	4 どちらで もない	6 そう思う	4 どちらで もない	6 そう思う

	歴 史 興 味	ファッショ ン興味		着 物 知 識 拡 大 認 識	模 様 興 味
事前	5 ややそ う思う	(未記入)	事後	5 ややそ う思う	5 ややそ う思う

【選んだ模様】

「菊」
(図無し)

【事後調査】

- 授業の感想:「着物(帯)にはそれぞれたくさんの願いが越えられている。その中の1つの菊についてしらべたところ長寿を象徴すると分かった」
- 着物に対する考え:「私はほとんど着物との関わりがなかったけれど着物の種類や着物の柄に込められている願いなどを少し知れたと思った。これからも着物やゆかたを着てみたい。」

【選んだ理由】

帯の色が黒でその中に金色、赤色、白色の菊が合っている。菊は長寿を象徴するもので菊はえんぎが良いと思った

女子生徒 E(表 20)は事前調査で、「着用経験」および「着物について知っていること」は“無い”様子が伺える。実際に事後調査で「ほとんど着物のとの関わりがなかった」と記述がある。事前の「着物」、「伝統文化」に対する興味を問う質問項目には、「1 全くそう思わない」の最低評価の回答をしている。ただし、「着装興味」や「成人式での着物の着装興味」については中立の回答であり、着物に対する「誇り」意識はややあるようだ。生徒は、「菊」模様の観察で縁起の良い意味に共感し、背景知識を得たことで着物や伝統文化に対する興味が全体的に向上したと考えられる。

5. まとめ

本研究では、着物文化の伝承に寄与することを目的として、着物に描かれる「伝統模様」を題材とした新規授業プログラムを開発し、実践した。

新規授業プログラムの開発においては、授業を通じて生徒が、「文化としての着物」の理解を深め、その奥深さや素晴らしさを感じる心を育むことをねらいとしてきた。

授業実践は、2015年9月に附属横浜中学校において、「着物について学習する」というテーマの一連の流れにおいて、教育実習生の授業「浴衣着装ワークショップ」に続いて本研究授業「着物文化の学習」を行った。事前・事後の調査、およびワークシートを用いて着物に関する生徒の意識の実態と授業の効果を分析した。その結果、以下の知見を得た。

1) 事前調査の結果

事前アンケートにより生徒の着物の着用経験や意識の実態を調査し、分析した結果、以下のことが明らかになった。

- ① 授業以前の生徒の着物の着用経験は、「七五三」、「祭り/花火」などで経験がある生徒が多く認められたが、男子の約3割および、女子の約1割は「着用経験がない」、あるいは「着用の記憶がない」という実態であることが明らかになった。
- ② 生徒の着物に対する興味の調査では、「着方」に興味を持つ生徒が多く、その他「柄(模様、色)」、「種類(場面と種類)」、「歴史」など、着物の知識に対する興味を持つ生徒も認められた。さらにここで、「そもそも着物とは何か」という本質を問う生徒も認められた。
- ③ 7件法による調査項目の回答を分析した結果、生徒は「着物」、「着装」、「伝統文化」などに対して、興味関心をもつ傾向があることが明らかになった。なおこれらの興味関心の高さは、男子よりも女子の方が有意に高い。
- ④ 男子は一般的な「歴史」に対して女子よりも高い興味を持っていた。相関分析から、男

子が抱く着物や日本の伝統文化に対する興味に、歴史の興味が影響することが示された。女子では、そのような関連性は認められなかった。

2) 事後調査の結果、事前・事後の変化、ワークシート、感想記述の結果

事後アンケートにより、生徒の授業に対する意識、着物に対する意識の変容を調査し、分析した結果、以下のことが明らかになった。

- ① 一連の着物の学習を通じて、男女ともに生徒の多くが着物について理解を深め、知識を獲得した自覚があることが示された。
- ② 模様を題材とした本研究授業を通じて、男女ともに多くの生徒が模様に興味を持ったことが認められ、生徒が興味をもって学習に取り組んでいたことが示された。
- ③ 「模様興味」とその他の項目の相関分析の結果から、「着物興味」、「着装興味」、「伝統文化興味」間に有意な正の相関がみられ、中でも「模様興味」・「着物興味」間で男女ともに正の中程度の相関を得た。また生徒の感想記述から、模様の学習を通じて着物の関心が喚起される様子が認められた。これらのことから、本研究授業が生徒の着物興味を向上させる効果があったことが示された。
- ④ 生徒が選んだ模様とその理由から、生徒は「デザイン」、「模様の意味」、「着用者の状況や心情」など様々な角度から教材に描かれる模様を捉え、生徒自身の興味によって主体的に観察する様子が認められた。
- ⑤ 授業の感想から、「模様の意味があること」「沢山の模様の種類があること」「通過儀礼と模様に込められた意味に関連性があること」など、模様の美しさを鑑賞するとともに、模様の意味や着用者の心情にも共感し、さらに「面白さ」や「驚き」をともなって理解を深める態度が認められた。
- ⑥ 生徒は着物や模様に関する背景知識を獲得したことで、着物文化の奥深さを理解し、そのことが文化的価値を理解することにつながっていた。さらに、文化を尊重する態度も育まれる様子が認められた。
- ⑦ 浴衣の着装に対する感想の記述から、着付けや着心地について約半数の生徒が否定的な感想を持ち、肯定的な感想を大きく上回ったが、着装時の身体感覚が心に深く刻まれた様子が認められた。
- ⑧ 今後の着物に関する実践意欲として、「着装意欲」が事前より事後に向上し、特に男子の意欲が事後に顕著に増加していた。今後の着装に関する具体的な生徒の意識については、『着物を「特別な日の服(ハレの日の服)」として着装する』と捉える意識が目立った。生徒は浴衣の着心地に対して肯定感を感じなかったが、着物の文化的な価値を理解したため、着物を日常の服ではなく、特別な日に着用する服として評価している傾向が伺えた。生徒は授業を通じて着物の知識を得たことで、着物に対する関わり方の一つの基準を持つことができた様子が認められた。

本研究授業では、模様を軸として、「歴史」、「気候風土」、「儀礼」、「美」などを総合的に関連付けた話として授業を組み立てた。さらに「先人が着物にこめた思い」、「今でも身近に残る文化であること」を内容に盛り込んだ。授業形態は、生徒が実物に触れ、主体的に学習し、他の生徒と共同する作業であった(図17)。

このような学習活動を通じて、生徒は幅広い視野で着物をとらえ、「人間の営み」として文化が育まれてきたことを感じて理解したことで、着物に対する「興味」、「学習意

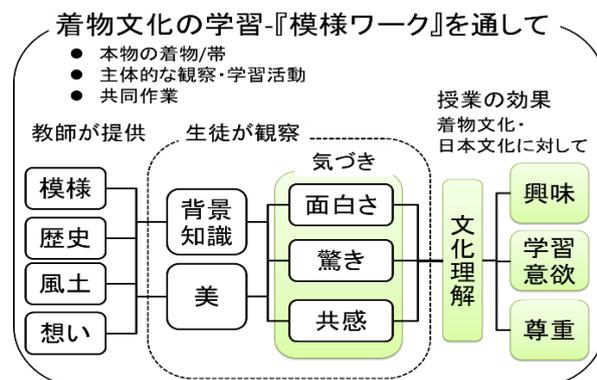


図17 授業の効果

欲」、「尊重」、といった態度が生まれたと考えられる。模様を一つ選び、理由を記述することは、生徒が模様をよく観察し、生徒の心情も反映させる行為となった。生徒が本物の着物や帯に触れたこと、他の生徒と話し合い意見を共有したことも学習に効果的であった。着物文化の学習として、本授業のねらいとした「感性でとらえ」「文化的価値を知り」「興味関心の芽を育む」といった点はおおむね達成できたといえる。また、男女ともに興味を持って学習できる内容であったことも示された。

【謝辞】

本研究の実践に当たり、ご協力いただいた、当時の附属横浜倉中学校校長の加藤先生、教育インターン等で、ご指導いただいた菅田浩美先生、着装授業に AT として協力いただいた当時の薩本研究室の学生の皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 薩本弥生,川端博子,斉藤秀子,呑山委佐子,扇澤美千子,堀内かおる,井上裕光,葛川幸恵,ゆかたの着装体験を含む教育プログラム開発をめざした中学校技術・家庭科での授業実践,日本家庭科教育学会誌, 56(1), 14-22,(2013)
- 2) 高橋美与子,柴 静子,日浦 美智代,一ノ瀬 孝恵,佐藤 敦子,高田 宏,モードのジャポニズムを通して日本の布と着物のちからを発見する衣生活領域の授業開発,広島大学学部・附属学校共同研究紀要, (41), 11-21,(2012)
- 3) 福田幼子, きものを彩る模様を用いたきもの文化の学習提案—模様ワークショップを通して—, 横浜国立大学家政教育学会学会誌, 27, -(2017)
- 4) 福田幼子, 着物文化の次世代への伝承と海外発信をめざした教育プログラムの開発, 2015年度横浜国立大学大学院教育学研科修士論文, (2016)
- 5) 「ど派手衣装」に賛否 北九州市で成人式／福岡県,2016/1/16,朝日新聞・朝刊 北九・(25)